



## 北信越ブロッククラブネットワークアクション 2017 開催報告

日 時： [1 日目] 平成 29 年 11 月 11 日（土） 13：00 ～ 17：15  
[2 日目] 平成 29 年 11 月 12 日（日） 9：15 ～ 12：00  
会 場： 長野市芸術館（アクトスペース）

内 容：テーマ：「総合型地域スポーツクラブは次のステージへ！」

### [1 日目]

1. 共通プログラム「地域スポーツクラブと障がい者スポーツ団体の連携」
2. 講演・シンポジウム「総合型クラブを継承するには ―世代交代の課題と方法―」  
講演：「創業の思いを引き継ぐ世代交代の在り方」  
シンポジウム：「総合型クラブの世代交代の課題と方法」

### [2 日目]

1. 日本体育協会からの情報提供
2. 事例発表・グループワーク「総合型地域スポーツクラブの質的充実のために」  
事例発表：「行政と協働をしているクラブ」  
グループワーク：「行政との協働プログラムづくりの実際」

### 【概要】

平成 7 年の総合型地域スポーツクラブのモデル事業スタートから、22 年が経過しました。第 2 期スポーツ基本計画の中では、クラブ数の量的拡大から質的な充実により重点を移して施策を推進すると記載されています。そこで今回は「総合型地域スポーツクラブは次のステージへ！」をテーマに掲げ、時期を迎え始めた世代交代問題を 1 日目の独自プログラムに取り上げました。

2 日目には、クラブの質的充実のために「行政との協働」を取り上げ、事例発表と「行政との協働プログラム作りのワーク」を行いました。

なお、今回は日本体育協会の泉 正文副会長が出席し、主催者として挨拶をいたしました。

### 【内容】

#### [1 日目]

#### 共通プログラム「地域スポーツクラブと障がい者スポーツ団体の連携」

昨年の「地域スポーツクラブへの障がいスポーツの導入」に続き、今年度は「知的に障害がある方」を対象を絞り、実際の受入を想定したワークを行いました。長野県障がい者スポーツ協会の半田直道さん、長野県障がい者福祉センターの太田澄人さんのお二人より、情報提供と助言を頂きながら進めました。

1 つ目のワークは、知的に障害のある方からクラブプログラムに参加したいとの申し出があった場合を想定し、どのような情報



を収集するかについて話し合いました。お二人より、その方の障害の特徴や程度、その方自身のことなどを事前に把握することが重要であることを事例を通じて助言いただきました。

次は、その情報の入手先についてペアでワークを行いながらアイデアを出し合うワークでした。会場からは、町内会などの情報入手先があげられ、加えてお二人からは、その方のご家族や所属する施設等など、できるだけ多くの情報を入手することが大事だということが伝えられました。

最後に、実行委員長より、実際に知的障がい者を受け入れた経験から、小さな関わりが障がい者関係団体の横のつながりで情報が広がり、今では複数の団体とのつながりがある事が紹介されました。小さな取り組みから、まずは、クラブで出来ることから関係者と協力し合いながら始めてみることの重要性が話され、まとめの言葉となりました。

## ブロック独自プログラム①

### テーマ：「総合型クラブを継承するには ー世代交代の課題と方法ー」

まず、渡辺優子氏（NPO 法人希楽々）を講師に「創業の思いを引き継ぐ世代交代の在り方」と題して講演がありました。クラブ紹介の後、人材育成についての話があり、その後、新潟県で行われた研修会のワークの結果の紹介がありました。一例としては、クラブの第1世代、第2世代に調査した「悩み事、困りごとのランキング」が紹介され、20代と60代以上の世代に共通した課題は、「雇用の安定」であり、まさにクラブの質的充実が世代交代とも密接に関係していることが分かりました。さらに、クラブの設立期から世代交代へとつながる、年を追っての軌跡が紹介されました。

最後に、クラブの次期リーダー候補である島田英宏氏とのサプライズ「仕込みなしの一问一答・本音勝負」で、会場は大いに盛り上がりました。



## シンポジウム：「総合型クラブの世代交代の課題と方法」

副実行委員長の西原康行氏の進行で、第1世代は高木貞介氏（NPO 法人エンジョイ S C 魚沼）と辺見元孝氏（一般社団法人木曾ひのきっ子ゆうゆうクラブ）、第2世代は、江村大輔氏（NPO 法人 Tap）と星野恵美氏（NPO 法人クラブぽっと）をシンポジストとして進めました。高木氏は、世代交代はクラブ全体の運営の中で日常的に行われ、経営基盤が盤石なことが重要であると述べました。辺見氏は、どんなクラブを目指したか、クラブづくりの思いを語り、これからの課題として、2度の失敗をした「世代交代」を挙げられました。江村氏は、クラブを創った第1世代でもあり、同時に30代という第2世代も兼ねていること、自分より年が上の理事がいる中でのクラブ経営の事情を語られました。また、課題として、タッチ交代ではなく長期的な取組の中で、多世代のスタッフが共に様々な問題を解決することの必要性を語りました。星野氏は、第2世代スタッフとしてのクラブ参加で、自分がどのように変化していったかを話されました。



[2日目]

## 日本体育協会からの情報提供

第2期スポーツ基本計画の中の総合型地域スポーツクラブに関する部分の説明や、過日SC全国ネットワークが実施した加入クラブによる自己点検・評価の結果等の情報提供がありました。会場より登録制度に関しての質問があり、各クラブの関心の高さがうかがえました。

## 開催ブロック独自プログラム②「総合型地域スポーツクラブの質的充実のために」

辺見元孝氏（一般社団法人木曾ひのきっ子ゆうゆうクラブ）と森本克美氏（一般社団法人ながの北部スポーツクラブ）が、行政との協働をしているクラブとして事例発表を行いました。辺見氏は、行政とクラブの協働の中での、双方の役割、する・みる・ささえるスポーツでの関わり、住民対象の公益的な関わり、縦割りの行政枠を超えての関わり、そして、スポーツのプロとして目標・実行を明確にして、新感覚で取り組むことを話されました。加えて、クラブが補助金ではなく委託料で町の施策に取り組み、信頼性を高めることの重要性を発表されました。森本氏は、分からないことだらけのままクラブを立ち上げ、指定管理に名乗りを上げたけれど不採用となったそうです。しかしながら、一般社団法人として法人化をすると、行政から委託事業が舞い込むようになり、複数の事業受託につながったそうです。二つのクラブとも、行政との協働がクラブ経営に明確に役立っているとのことでした。



## ワーク「行政との協働プログラム作りの実際」

ワークでは、参加者が実際に「行政との協働プログラム」を作ることになりました。進行役の高木氏より、プログラム作りのポイント（協働の留意点）、② 行政、地域の課題と資源の洗い出し、③ 課題と資源のマッチングによるプログラムづくり、④ プログラムの予算化の説明がありました。

行政のメリットとクラブのメリットを考えることや、誠意と粘り強さで人間関係を重視すること、受託額積算はフルコスト回収の考え方で間接費と利益を盛り込むこと、行政は予算時期があるため、提案のタイミングが重要であること等が話されました。時間が押したため、提案書の作成時間が十分ではありませんでしたが、いくつかのグループが課題と資源のマッチングにより、協働事業をまとめあげてくれました。事業名でみると「他分野で取り組む少子高齢化プログラム」、「いき健康教室～介護予防で生き生きと～」、「地元の資源を利用した若返り」、「介護予防事業 軽井沢に行って健康になりましょう」、「初心者マレットゴルフ、脳トレ教室」など、各グループで真剣に取り組んでいたできました。



## 【まとめ】

クラブの数から質へ、PDCAサイクルの定着や地域課題を解決出来るクラブ、認知度の向上、公益性の確保等々、まさに課題山積の状況です。過去2年間、北信越ブロックではこの問題に取り組んできました。今年度もその延長線上にテーマを絞りました。

世代交代や行政との協働の研修の中で感じたことは、クラブとしての質でした。円滑な世代交代や、公益性を確保するための法人化、地域課題の解決への取組、行政との協働、これらすべてがクラブの質的向上により可能性を広げていくことを強く感じたネットワークアクションでした。

